



福井県の グリーンボンド インパクトレポーティング

令和8年9月

もくじ

1 福井県の目指す姿

- | | |
|------------------|---|
| (1) 福井県長期ビジョンの概要 | 3 |
| (2) 令和8年度重点施策 | 5 |

2 福井県とSDGsの関わり

- | | |
|------------------|----|
| (1) 福井県のSDGsの取組み | 8 |
| (2) 福井県環境基本計画 | 10 |

3 福井県グリーンbondのご紹介

- | | |
|---------------------------|----|
| (1) 令和7年度 グリーンbond発行概要 | 12 |
| (2) 令和7年度 グリーンbond投資表明投資家 | 13 |
| (3) 令和7年度 資金充当状況・環境改善効果 | 14 |
| (4) 令和7年度 資金使途詳細 | 15 |

1 福井県の目指す姿

(1) 福井県長期ビジョンの概要

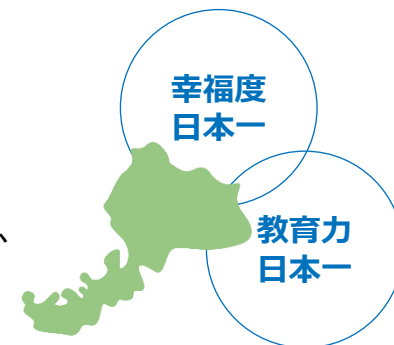
■ 福井県長期ビジョン [2025年3月改定版]

■ 基本理念

「安心のふくい」を未来につなぎ、もっと挑戦！もっとおもしろく！

▶ 安心と信頼のふくい

先人たちが守り伝えてきた歴史・文化、豊かな自然や食、家族や地域のつながり、充実した子育て・教育環境、安定した産業・雇用など



■ 2040年に福井県が目指す姿

SDGs（誰一人取り残さない、多様性と包摂性のある持続可能な社会）の理念に沿いながら、3つの姿を目指します

自信と誇りのふくい

「ふくいらしさ」を伸ばし、外に開いて人を呼び込む。

誰もが主役のふくい

多様な個性を大事にし、みんなが自分らしく輝く。

飛躍するふくい

変化をチャンスに、しごととくらしを創造。

基本
目標

しあわせ先進モデル 活力人口100万人ふくい

県民誰もが豊かなくらしを楽しみ、そのイキイキとした姿やまちの魅力が人を呼び込み、地域がにぎわい、それがまた県民の誇りにつながる。

(1) 福井県長期ビジョンの概要

■ 基本方向

／＼ とんがろう、楽しもう、ふくい ／＼

- ・誰もが自分らしく生きられる「安心の居場所」と「活躍の舞台」のある「日本一の幸せ実感社会」を実現し、
- ・一人ひとりのチャレンジとまちの進化を好循環させ、もっとおもしろい「ふくい新時代」をみんなで切り拓いていこう

■ 5つの総合目標

①都道府県幸福度ランキング	総合 1 位	総合 1 位 を維持
②県民の総合的幸せ実感度	7.0点	現状値 以上
③地域への愛着実感度	3.4点	現状値 以上
④合計特殊出生率	全国8位	全国上位 を維持
⑤社会増減（日本人のみ）	▲2,018人	▲ 2,000人 以内

(2) 令和8年度重点施策

にぎわいを生む福井の実現へ

福井アリーナ（仮称）整備支援

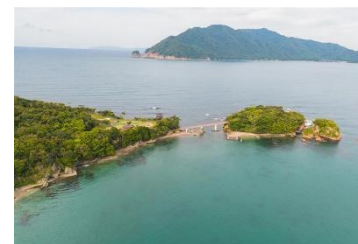
- ・ 経済界が中心となって進める福井アリーナ（仮称）整備について、国の交付金を活用し福井市とともに支援
- ・ 多くの人を呼び込み県内各地を周遊してもらうことで、地域経済の好循環と持続的ににぎわいを創出



福井アリーナ（仮称）
整備イメージ

嶺南エリアへの新たな観光投資

- ・ 嶺南地域に高級リゾートホテル等を誘致する若狭湾プレミアムリゾート構想を推進
- ・ 若狭湾サイクリングルートの整備を推進し、サイクリストやファミリー層を誘客



リゾート候補地の例
（おおい町）

誘客促進

- ・ 宿泊旅行を促進するため、お得に旅行ができるキャンペーンを実施
- ・ 観光資源を活かしたコンセプトルールの改修など、魅力的な宿泊施設の整備促進



福井県内の宿（イメージ）

県立大学地域政策学部の開設

- ・ 地域のリーダー的人材を育成するため福井県立大学に地域政策学部を開設
- ・ 学生がまちづくりに積極的に関わることを目指し、福井駅前のビル内にまちなかキャンパスを新設



キャンパス1階部分（イメージ）

こどもを育てやすい福井の実現へ

きめ細かな子育て支援

- ・ 放課後児童クラブ等の環境を改善するため市町対象の交付金を創設
- ・ 校内サポートルーム支援員の配置を拡充し、児童生徒へのきめ細かな対応を実施



放課後児童クラブ

安心の子育て環境整備

- ・ ひとり親家庭等が身近に相談でき安心して生活できる環境を整備
- ・ 医療的ケアが必要な障がい児者とその家族が、地域で安心して生活できるよう、事業者等における受入れを促進



相談支援（イメージ）

(2) 令和8年度重点施策

商い・ものづくり・暮らしが続く福井の実現へ

物価高を克服する経済対策

- 物価高の影響を受けている事業者を支えるため、プレミアム付き商品券を販売し、消費喚起を実施
- 一定以上の賃上げを行う事業者に奨励金を支給、社労士による伴走支援により中小企業の賃上げを促進



伴走支援（イメージ）

投資や人材の呼び込み

- 研究開発型企業などの高付加価値企業を集積させるため、成長が見込まれる企業の投資を支援
- 若手起業家の創出・育成に向けたワークショップの開催や県内ベンチャー企業の成長を応援



福井ベンチャーサミット

医療・介護体制の強化

- 基幹病院における心疾患など急性期疾患への対応力を強化し、嶺南地域の医療完結率を向上
- 訪問介護および訪問看護サービス提供体制を強化するとともに、介護従事者の安全確保と負担軽減を実施



訪問介護（イメージ）

安全な暮らしを守る

- クマによる人身被害防止のため、専門員の配置やICT活用を進めるとともに、市町が実施する緊急銃猟等を支援
- 交通事故死者の多い高齢者や横断歩道の歩行者の安全対策等を推進し、交通事故を防止



緊急銃猟の実施

農林漁業が輝く福井の実現へ

スマート農業を加速

- 稼げる農林水産業を展開するため、ほ場の大区画化などの基盤を整備
- 作業の効率化、省力化につながるスマート技術導入を支援し、農林水産物のブランド化やPRを強化



ドローンを用いた農薬散布

次世代の農業の担い手育成

- 嶺南地域における園芸の生産振興や新規就農者の育成、定着を促進
- 研修、観光、体験、研究施設が隣接する園芸拠点として「第二ふくい園芸カレッジ（仮称）」を整備



研修の様子（イメージ）

2 福井県とSDGsの関わり

(1) 福井県のSDGsの取り組み

■ 福井県SDGsパートナーシップ会議を令和2年8月に創設

長期ビジョンに掲げたSDGsの理念に沿って持続可能な地域づくりを推進する官民連携プラットフォーム

【活動コンセプト】 **未来のために。～次の世代に選ばれる福井へ～**

- ・ 1400の機関（企業、団体、教育機関、自治体など）が参画
- ・ フォーラム（年1回）や交流会を開催、SNSを活用した情報発信

■ SDGsフォーラム2025の開催（令和7年度）

- 1部：講演会（講師：福井県出身美術家 長坂真護氏）
- 2部：SDGsパートナー企業・団体の取組紹介・交流会
 - ▶ 企業や団体等におけるSDGs実践の連携のきっかけづくり



■ 県民からの公募によりオリジナルロゴマークを作成

- ・ 令和2年度 デザイン公募（応募総数 467件）
- ・ 令和3年度 愛称公募（応募総数 1,152件）
- ・ パートナーが名刺やHPに掲載、ロゴマークを活用した商品を開発・販売



愛称: ジュナナ

■ SDGs未来都市への選定（令和3年5月）

【テーマ】 **「次世代に選ばれる『しあわせ先進モデルふくい』の実現」**

「福井の未来を担う次世代の育成」を取り組みの中心に位置づけ、官民一体となって人材育成

(1) 福井県のSDGsの取組み

■ 県民×企業×行政の協働推進体制を強化

- ・令和5年度 SDGsディレクターとSDGsコーディネーター（3名）を配置
- ・企業や団体を訪問し、課題発掘や解決に向けた具体的な連携の提案・サポート等を実施



トヨシマセンイの残反を活用し、
ジャパンポリマークがリペアパッチを開発

■ 教育機関とSDGsパートナーの連携を促進

- ・令和3年度 学校との連携に積極的なパートナーのリストを作成し、HPで公開
- ・パートナー登録企業等が持つ技術やノウハウ、ネットワークを活かして、環境面の課題である「地球温暖化対策」をテーマに子どもたちが楽しみながら学ぶことができるボードゲームを作成し、出前授業を実施



■ ふるさと納税を活用し、SDGsパートナーの活動を応援

- ・パートナーのSDGs関連商品、活動の背景・目的を紹介し、県内のSDGs活動を全国に発信



県産間伐材を使用した若狭塗箸

(2) 福井県環境基本計画

- 本県は、「福井県環境基本条例」の基本理念に基づき、環境保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、1997年に福井県環境基本計画を策定
- 地球温暖化対策など持続可能な社会の実現に向けて、これまでの施策の成果や県民意識の変化も踏まえ、2023年に新たな計画を策定

福井県環境基本計画(2023年度～2027年度)

基本目標：次世代につなぐ豊かで美しいふくいの環境

地球温暖化対策の推進

【削減目標】

- ✓ 2050年の温室効果ガス排出実質ゼロ（カーボンニュートラル）を目指す
- ✓ 2030年度の温室効果ガス排出量を49%削減（2013年度比）
- エネルギー源の転換、省エネの推進等
- 再生可能エネルギーの導入拡大
- 森林等の吸収源対策
- 適応策の推進
- 県の事務・事業における温室効果ガス排出削減

自然と共生する社会づくりの推進

- 自然とふれあう活動の推進
- 里山里海湖の自然再生と活用
- 生物多様性の保全

生活環境の保全

- 一般廃棄物の減量化とリサイクル推進
- 産業廃棄物の減量化とリサイクル推進
- 廃棄物の適正な処理の推進

循環型社会の推進

- 水・大気環境の保全
- 化学物質対策の推進
- 放射性物質の監視

各分野に共通する施策の推進 (環境を支える人づくり・地域づくり)

- 誰もが学べる環境教育の推進
- 活力と資源が最大限に活かされる地域づくりの促進
- 環境に配慮した活動の促進

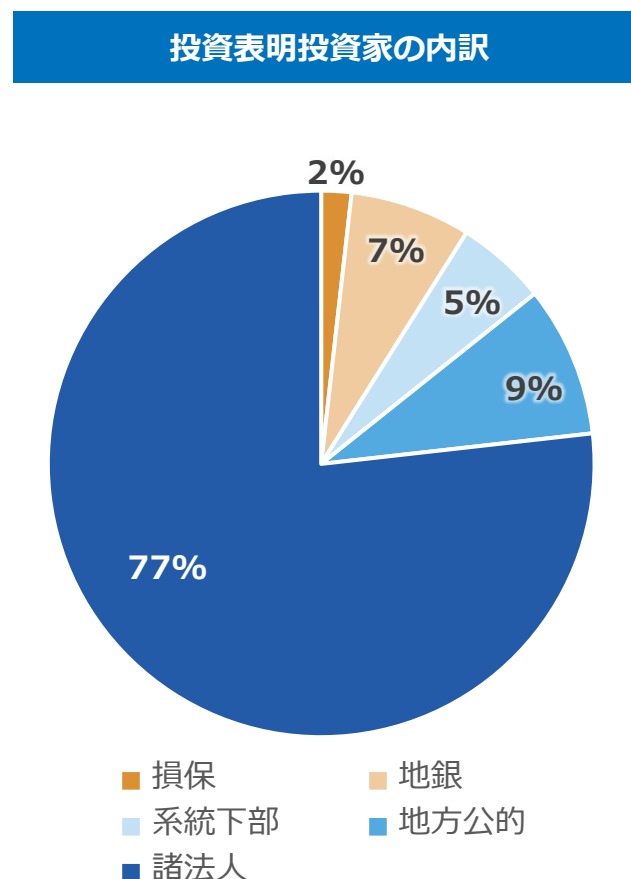
3 福井県グリーンボンドのご紹介

(1) 令和7年度 グリーンボンド発行概要

■ 福井県として3年目となるグリーンボンドを発行

- 本県では、2050年カーボンニュートラルの実現を目指し、省エネルギー化、再生可能エネルギーの導入などを進めるとともに、気候変動への適応策を推進。これらの施策を推進するための資金調達として、グリーンボンドを発行

発行概要	
名称	福井県令和7年度第6回公募公債（グリーンボンド）
発行額	50億円
発行日	令和7年10月30日
償還日	令和12年10月30日
利率	1.286%
発行価格	額面100円につき100円
期間	5年（満期一括償還）
主幹事	SMBC日興証券（事務）、 野村證券、 三菱UFJモルガン・スタンレー証券
適合性評価	第三者機関である株式会社格付投資情報センター（R&I）から、国際資本市場協会（ICMA）によるグリーンボンド原則2021及び環境省グリーンボンドガイドライン2022年版への適合性について、評価を取得



(2) 令和7年度 グリーンボンド投資表明投資家

- 令和7年度のグリーンボンドでは県内の投資家を中心に福井県の取り組みに賛同・共感いただき、56件の投資家から投資表明をいただきました

令和7年度 グリーンボンド投資表明投資家

県内投資家				県外投資家	
No.	投資家名	No.	投資家名	No.	投資家名
1	井上商事 株式会社	25	学校法人 福井県自動車学園	1	株式会社大分銀行
2	岩崎工業 株式会社	26	社会福祉法人福井県社会福祉協議会	2	株式会社徳島大正銀行
3	永平寺サイジング 株式会社	27	公益財団法人 福井県スポーツ協会	3	長野県市町村総合事務組合
4	越前町	28	福井県農業信用基金協会	4	日本コープ共済生活協同組合連合会
5	株式会社 エル・ローズ	29	一般社団法人 福井県薬剤師会	5	日本地震再保険株式会社
6	株式会社 オーイング	30	福井コンピュータホールディングス株式会社	6	日野市
7	社会福祉法人 小浜市社会福祉協議会	31	一般社団法人 福井人絹倶楽部	7	ふくしま未来農業協同組合
8	社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 福井県済生会	32	株式会社 福井新聞社	8	丸亀市
9	社会福祉法人 海楽園	33	福井信用金庫	9	株式会社もみじ銀行
10	共同コンピュータ 株式会社	34	国立大学法人 福井大学		
11	協立電機産業 株式会社	35	福井鋳螺株式会社		
12	学校法人 国際ビジネス学院	36	福井矢崎サービス 株式会社		
13	株式会社 こんどう	37	医療法人 福仁会		
14	株式会社 シーロード	38	フクビ化学工業株式会社		
15	汐見金刀比羅神社	39	富士経編 株式会社		
16	大栄 株式会社	40	株式会社 前田産業		
17	高浜町	41	美方ケーブルネットワーク 株式会社		
18	ニホン・ドレン 株式会社	42	株式会社 山内スプリング製作所		
19	野尻コンクリート工業 株式会社	43	株式会社 山岸		
20	株式会社福井銀行	44	吉岡幸 株式会社		
21	福井県医師信用組合	45	ヨシダ工業株式会社		
22	公益社団法人福井県看護協会	46	社会福祉法人 緑進会		
23	株式会社福井建材社	47	医療法人 嶺南こころの病院		
24	一般財団法人 福井県産業会館				

(五十音順)

(3) 令和7年度 資金充当状況・環境改善効果

北陸新幹線の整備、足羽川ダムの整備及び災害時の緊急輸送道路となる中部縦貫自動車道の整備などに資金を充当

ICMA原則上の事業区分	充当事業	充当額（百万円） （充当割合）	効果／実施事業内容
クリーン輸送	■ 北陸新幹線の整備 （北陸新幹線負担金）	223（4.5%）	■ 59,000（t-CO2/年）＊
エネルギー効率	■ 新築建物のZEB化	301（6.0%）	■ エネルギー削減量：725,111kWh/年 ■ ZEB Ready適合 BEI値：0.47、エネルギー削減率：53% ■ 温室効果ガス削減量：312.5（t-CO2/年）
	■ 照明のLED化 （LED式交通信号灯器移行事業）	283（5.7%）	■ 導入台数：車両灯器 641台 歩行者用灯器 639台 ■ 電力削減量：695,770.9（kWh/年） ■ CO2排出削減量：299.9（t-CO2/年）
	■ 照明のLED化 （県庁舎LED化）	156（3.1%）	■ 導入台数：2,021台 ■ 電力削減量：133,969.8（kWh/年） ■ CO2排出削減量：57.7（t-CO2/年）
生物自然資源及び 土地利用に係る 環境持続型管理	■ 公共施設等の木造化、木質化の 推進（県立高等学校寮整備事業）	429（8.6%）	■ 県産木材の使用体積 ・勝山高校寮：148.53m ³
	■ 公共施設等の木造化、木質化の 推進（駐在所等整備事業）	121（2.4%）	■ 県産木材の使用体積 ・麻生津交番：13.99m ³ ・森田交番：8.00m ³
気候変動への適応	■ 河川改修、ダムの整備 （足羽川ダム）	1,967（39.3%）	■ ダム本体打設：約69万m ³ ■ 導水トンネル：4,717m ■ 付替県道：約6.1km ■ 浸水面積：約77km ² 減 ■ 浸水戸数：約32,000戸減 ■ 床上浸水戸数：約19,000戸減
	■ 災害時の緊急輸送道路となる 中部縦貫自動車道の整備	1,520（30.4%）	■ 災害時における広域的な迂回路の確保 ■ 整備距離：大野～油坂間35km
合計		5,000（100%）	

※独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構「北陸新幹線（金沢・敦賀間）事業に関する再評価」を参照

(4) 資金使途詳細 ～北陸新幹線の整備～

北陸新幹線金沢・敦賀間の開業に伴う高架下整備や騒音・振動対策を実施

ICMA原則上の事業区分	充当事業	整備内容	効果／実施事業内容
クリーン輸送	■ 北陸新幹線の整備 (北陸新幹線負担金)	■ 北陸新幹線金沢・敦賀間の整備 (R6.3.16開業) － 高架下整備、開業後の騒音・振動対策	■ CO2排出削減量： 59,000 (t-CO2/年) *

※独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構「北陸新幹線（金沢・敦賀間）事業に関する再評価」を参照

北陸新幹線の整備（北陸新幹線負担金）

金沢・敦賀間（福井県内区間）の工事概要

整備期間	2012～2027年度
総工事費	約1兆6,779億円 (うち県内事業費：約1兆1,200億円)
工事延長	114.6km (うち県内区間：74.4 km)



整備の状況

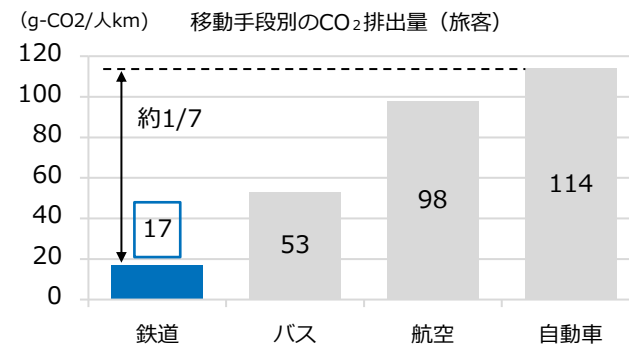
- 新幹線開業に伴うインフラ整備の一貫として、高架下整備、開業後の騒音・振動調査を実施
 - － あわら市、坂井市、福井市、鯖江市、越前市、南越前町、敦賀市



(整備例) 福井市・高架下整備

環境改善効果

- 新幹線をはじめとする鉄道は、輸送量当たりの二酸化炭素排出量（旅客）が、航空の約1/5、自動車の約1/7であり、他交通機関と比べて環境に優しい交通機関
- 北陸新幹線の延伸（金沢・敦賀間）により航空機、バスや自動車から新幹線に旅客が転移した場合、年間約59,000t-CO2の排出量削減が見込まれる



出典：令和元年度温室効果ガス排出量（確報値）について
(令和3年4月 環境省)

(4) 資金使途詳細 ～照明のLED化～

照明のLED化などを進め、時代に即し、環境に配慮した県有施設を整備

ICMA原則上の事業区分	充当事業	整備内容	効果／実施事業内容
エネルギー効率	■ 新築建物のZEB化	■ 県立大学恐竜学部棟の整備に伴うZEB化	■ エネルギー削減量：725,111kWh/年 ■ ZEB Ready適合 BEI値：0.47 ■ エネルギー削減率：53% ■ CO2削減量：312.5 (t-CO2/年)
	■ 照明のLED化 (LED式交通信号灯器移行事業)	■ 電球式信号灯器からLED式信号灯器への更新	■ 導入台数：車両灯器 641台 歩行者用灯器 639台 ■ 電力削減量：695,770.9 (kWh/年) ■ CO2排出削減量：299.9 (t-CO2/年)
	■ 照明のLED化 (県庁舎LED化)	■ 蛍光灯からLED照明への更新	■ 導入台数：2,021台 ■ 電力削減量：133,969.8 (kWh/年) ■ CO2排出削減量：57.7 (t-CO2/年)

県立大学恐竜学部棟の整備に伴うZEB化

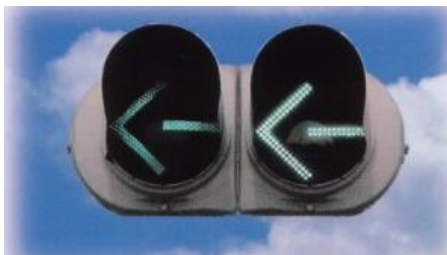
- 県立大学恐竜学部棟の整備にあたり、エネルギー削減率50%以上を見込むことが可能な建築物である「ZEB Ready」の認証を取得



福井県立大学恐竜学部棟

LED式交通信号灯器移行事業

- 福井県内の交通信号へのLED照明の導入。車両灯器 641台、歩行者用灯器 639台の計1,280台の更新を実施
- 年間で電力削減量を約70万kWh、CO2排出削減量約300tの効果を見込む



電球式信号灯器 LED式信号灯器

照明のLED化

- 県庁舎の蛍光灯2,021台をLED照明へ更新
- 年間で電力削減量を約13万kWh、CO2削減量約57tの効果を見込む



蛍光灯



LED照明

(4) 資金使途詳細 ～県立高等学校寮・駐在所等整備事業～

県産木材による木造化・木質化を進め、時代に即し、環境に配慮した県有施設を整備

ICMA原則上の事業区分	充当事業	整備内容	効果／実施事業内容
生物自然資源及び 土地利用に係る 環境持続型管理	■ 公共施設等の木造化、 木質化の推進 (県立高等学校寮整備事業)	■ 勝山高校に木造の寮を建設	■ 県産木材の使用体積 ・勝山高校寮：148.53m ³
	■ 公共施設等の木造化、 木質化の推進 (駐在所等整備事業)	■ 県産木材を活用し、老朽化 した交番等を建替え	■ 県産木材の使用体積 ・麻生津交番：13.99m ³ ・森田交番：8.00m ³

県立高等学校寮整備事業

- 2026年3月、勝山高校「ひびき寮」が完成
- 県として県産木材の利用拡大を推進しており、木造とすることで環境への配慮と、暖みのある木材を使用することで子どもたちの成長を温かくサポート
- 生徒の居室を個室化することで生徒のプライベート空間を確保



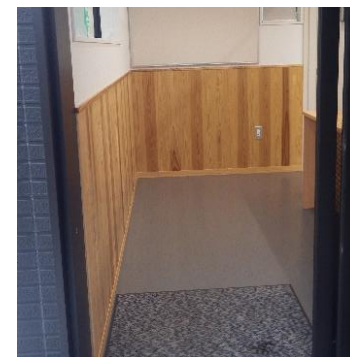
勝山高校寮 ひびき寮

駐在所等整備事業

- 2026年3月、麻生津交番及び森田交番が完成
- 県産木材を活用することで環境への配慮と、周辺地域と調和したまちなみ景観を目指しつつ、社会情勢や地域の安全安心に応える



森田交番



麻生津交番

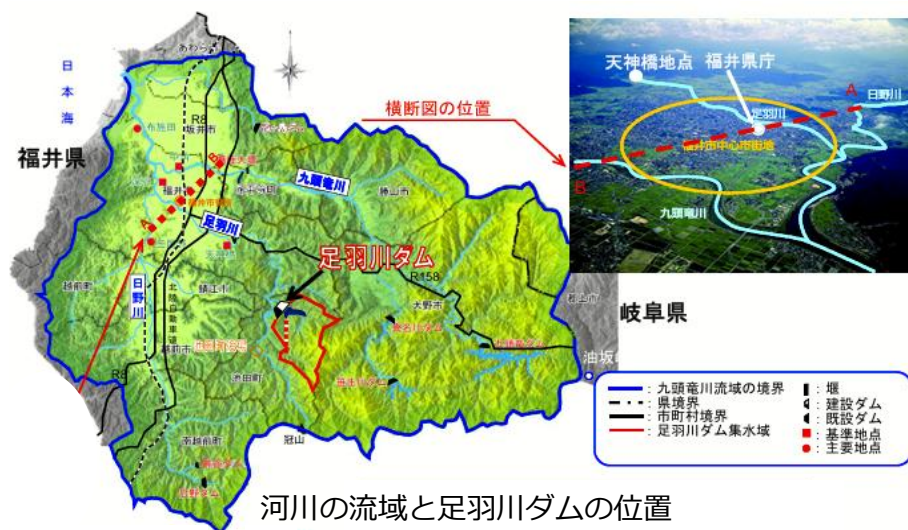
(4) 資金使途詳細 ～足羽川ダムの整備～

水害被害の防止・減少を図るため足羽川ダムを整備

ICMA原則上の事業区分	充当事業	整備内容	効果／実施事業内容
気候変動への適応	■ 河川改修、ダムの整備 (足羽川ダム)	■ 調査設計、用地補償、工事 (整備工、改良工、舗装工、 橋梁工、トンネル工)	■ ダム本体打設：約69万m^3 ■ 導水トンネル：4,717m ■ 付替県道：約6.1km ■ 浸水面積：約77km^2減 ■ 浸水戸数：約32,000戸減 ■ 床上浸水戸数：約19,000戸減

足羽川ダムの整備

- 福井市街地を流れる足羽川沿川は、人口及び資産が集中し、JR福井駅や県庁をはじめとする各行政機関が設置されており、県内の社会経済活動の中心として重要な役割を担う
- 足羽川、日野川、九頭竜川の下流地域を水害から守るために、九頭竜川水系足羽川支川の部子川に治水専用ダムを建設

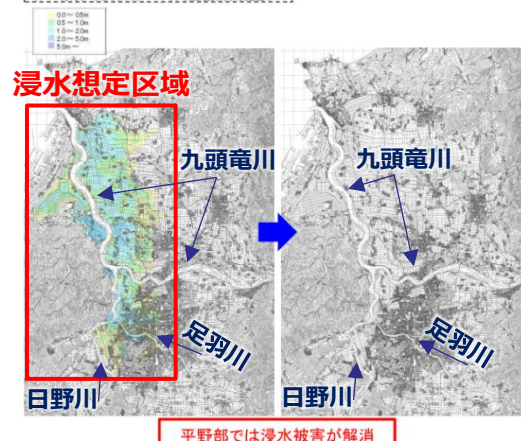


足羽川ダム整備による浸水被害の軽減効果

- 河川整備計画規模（1/80）の降雨が生じた場合では、平野部の浸水被害が解消

足羽川ダム建設事業による浸水深の軽減

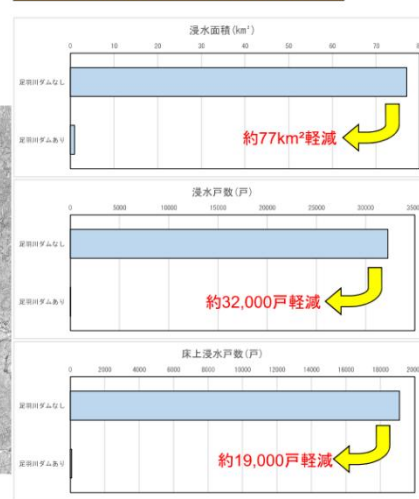
<氾濫計算条件>
河道：河川整備計画完了時河道
ダム条件：足羽川ダム河川整備計画施設



ダム整備前

ダム整備後

足羽川ダム建設事業による浸水被害の軽減



※ 山間部の一部においては浸水が生じる可能性があります。

(4) 資金使途詳細 ～緊急輸送道路 中部縦貫自動車道の整備～

大雨や大雪など、自然災害発生時の代替道路となる中部縦貫自動車道を整備

ICMA原則上の事業区分	充当事業	整備内容	効果／実施事業内容
気候変動への適応	災害時の緊急輸送道路となる中部縦貫自動車道の整備	調査設計、用地補償、工事（改良工事、舗装工事、橋梁工事、トンネル工事）	- 災害時における広域的な迂回路の確保 - 整備距離：大野～油坂間35km

災害時の緊急輸送道路となる中部縦貫自動車道の整備

- 大野油坂道路は、中部縦貫自動車道の一部を構成する、大野市東市布から大野市中津川に至る約35kmの自動車専用道路
- 高速道路ネットワークを形成するとともに、安定した交通の確保、地域・観光資源を活かした地域経済の活性化、医療活動の支援を目的とする。現在、国土交通省によって整備が進められている

中部縦貫自動車道の整備効果

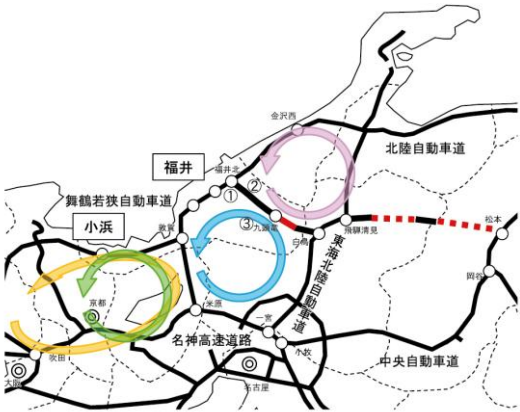
北陸圏、関東圏、中京圏、関西圏を結ぶ 広域ネットワークの構築

- 移動時間・距離の短縮
- 災害時における広域的な迂回路の確保



地域経済の活性化 ～企業立地の促進・観光客の増加～

- 企業立地の促進と市場の拡大
- 観光客の誘致促進・増加



地域生活の安全・安心の確保

- 医療機関へのアクセス向上
- 安定した交通路の確保



福井県債に関するお問い合わせ先

- 福井県 総務部 財政課
- 住所 〒910-8580 福井県福井市大手3丁目17番 1 号
- TEL 0776-20-0234
- FAX 0776-20-0629
- Email : zaisei@pref.fukui.lg.jp
- HP : <http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/zaisei/zaisei09.html>

